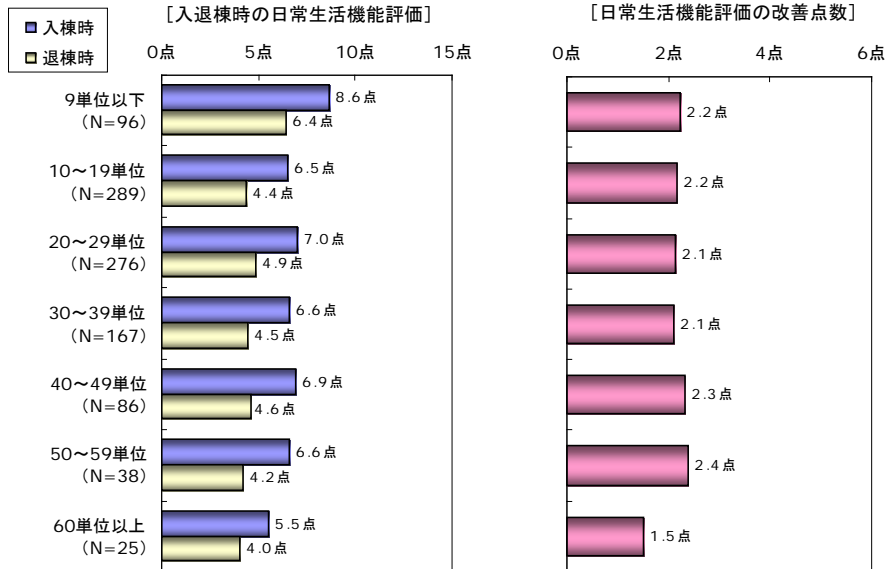
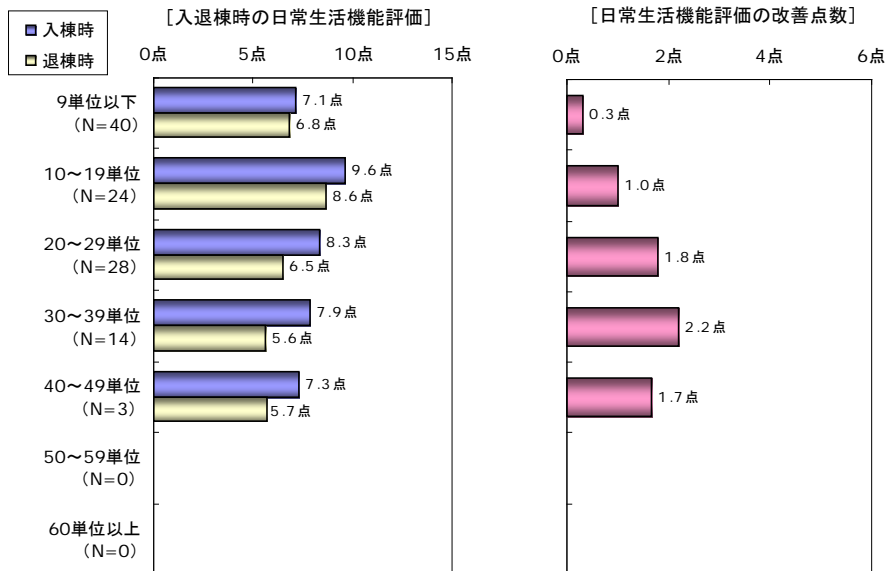


[廃用症候群]

[回復リハビリテーション入院料1 算定患者]
理学+作業+言語療法の1人当たり実施単位数
平均 25.2 単位



[回復リハビリテーション入院料2 算定患者]
理学+作業+言語療法の1人当たり実施単位数
平均 16.9 単位

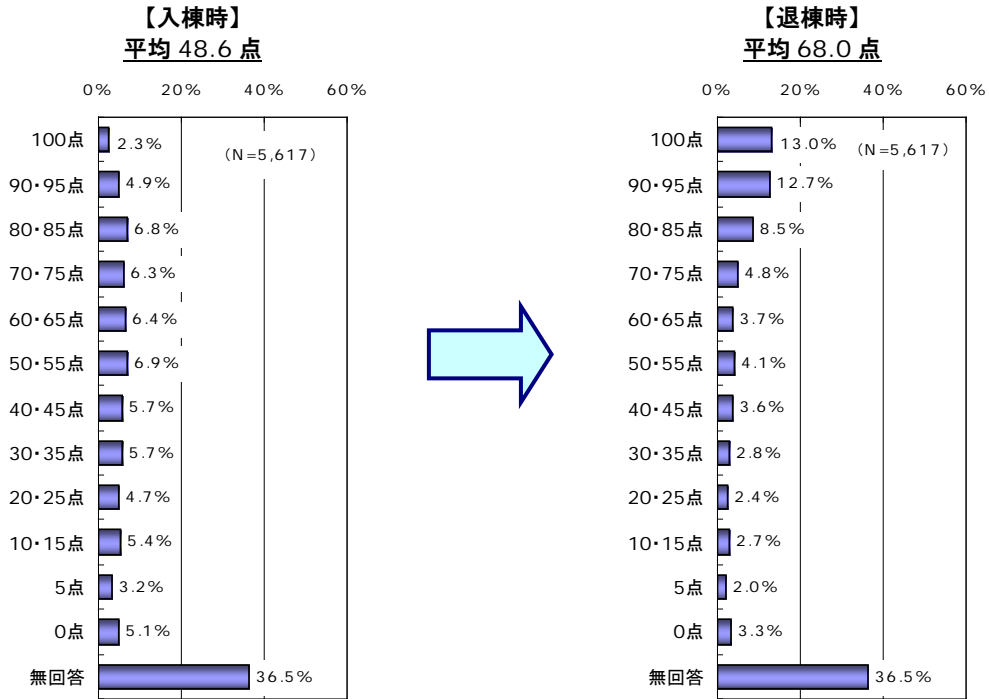


③ バーセル指数の改善状況

・バーセル指数の改善状況（図表 4-36）

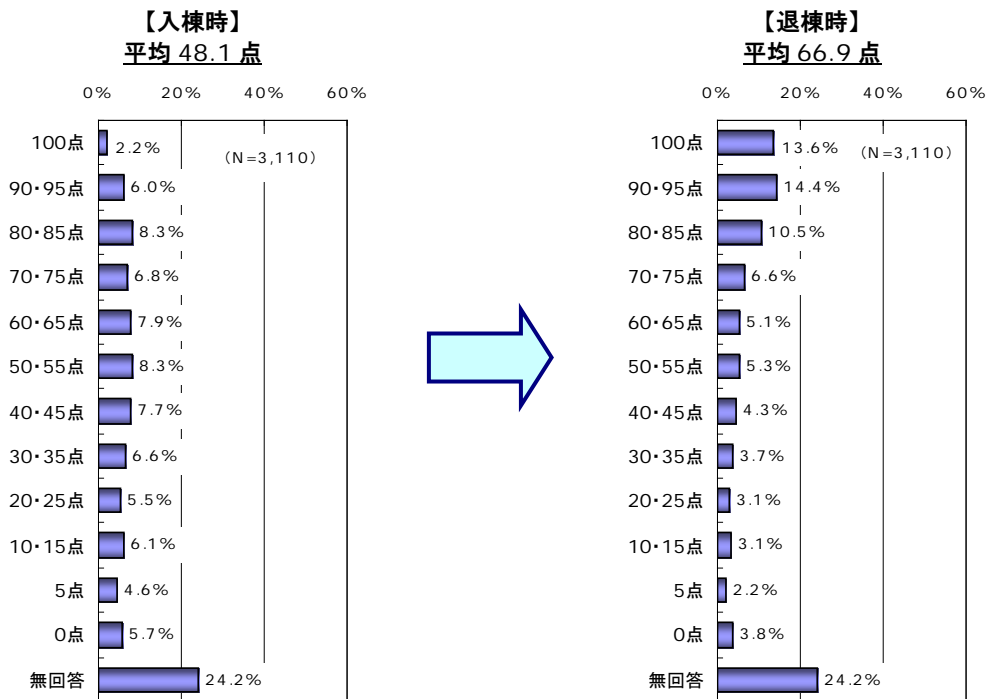
【入院料 1（加算有り）】

退棟時におけるバーセル指数：入棟時に比べて平均 19.4 点改善



【入院料 1（加算無し）】

退棟時におけるバーセル指数：入棟時に比べて平均 18.8 点改善



[入院料 2]

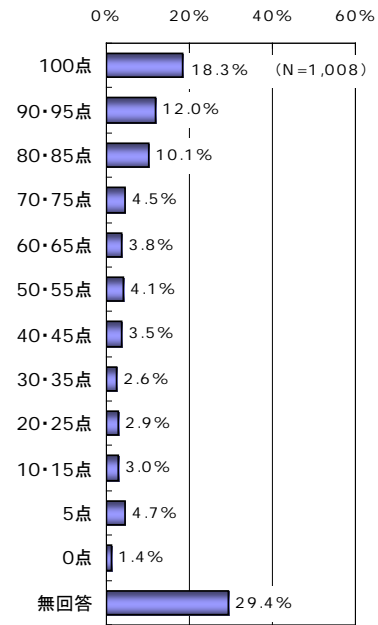
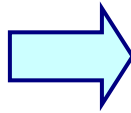
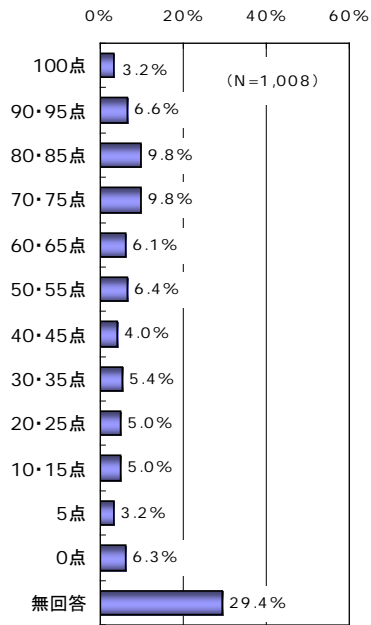
退棟時におけるバーセル指数：入棟時に比べて平均 16.8 点改善

【入棟時】

平均 52.5 点

【退棟時】

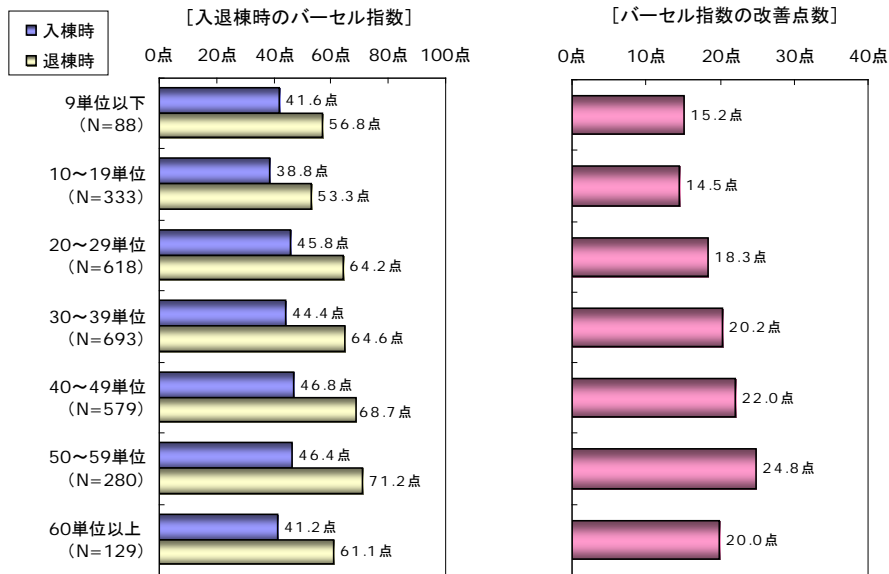
平均 69.3 点



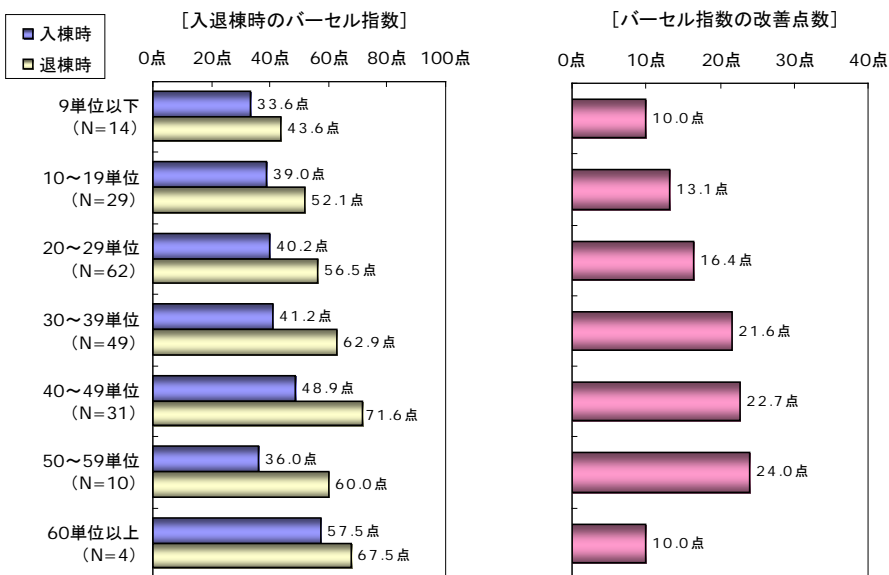
・入棟日の翌週 1 週間のリハビリテーション（理学+作業+言語療法）の実施状況別に見た
バーセル指数の改善状況（図表 4-37）

【脳血管疾患】

【回復リハビリテーション入院料 1 算定患者】
理学+作業+言語療法の 1 人当たり実施単位数
平均 34.4 単位

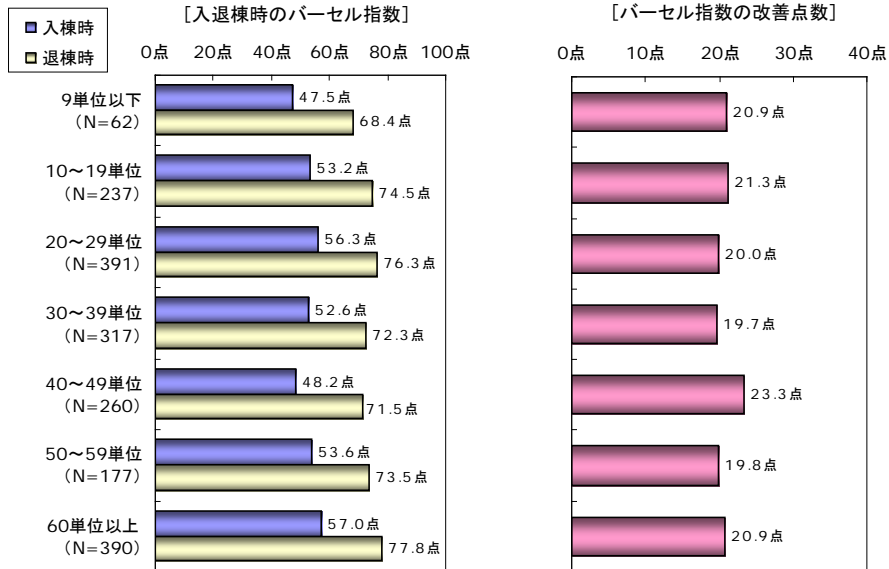


【回復リハビリテーション入院料 2 算定患者】
理学+作業+言語療法の 1 人当たり実施単位数
平均 29.7 単位



[大腿骨等の骨折、二肢以上の多発骨折]

[回復リハビリテーション入院料 1 算定患者]
理学+作業+言語療法の 1 人当たり実施単位数
平均 41.0 単位



[回復リハビリテーション入院料 2 算定患者]
理学+作業+言語療法の 1 人当たり実施単位数
平均 37.3 単位

